

農

学部

Faculty of Agriculture

現 3 学 科	応用生物科学科
	生物環境科学科
	生命機能科学科



新 1 学 科	生物資源科学科	
	生物科学コース	生命機能科学コース
	食資源環境科学コース	国際・地域マネジメントコース

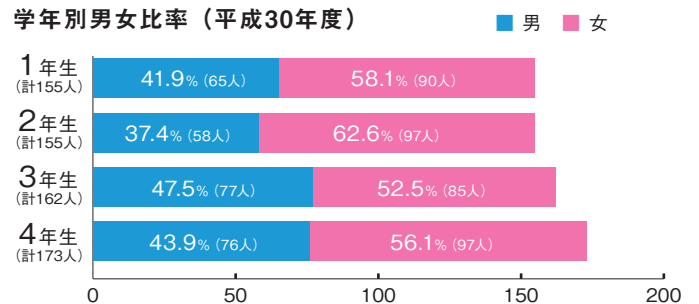


求められる農学の発展。 社会のニーズに応える力を習得する。

農学は、農業および食料、生命、環境、情報、エネルギー、地域社会を対象とする教育研究分野が揃い、暮らしにも深く関連している総合学問です。その幅広い専門性を理解し、社会における応用力を養成するためには、まず農学全般にわたる基礎的知識の充実と基礎学力の強化が不可欠です。そこで農学部では、1年次しっかりと農学に関する基礎知識を身につけた上で、2年次から4つの教育研究コースへと進んでいきます。

さらに、農業ICT学やアグリキャリアデザイン等の新たな授業科目を取り入れ、企業家精神や経営感覚に優れ、地域のリーダーとして活躍できる創造性豊かな専門職業人の育成を目指します。

学年別男女比率（平成30年度）



養成する人材像と習得させる能力

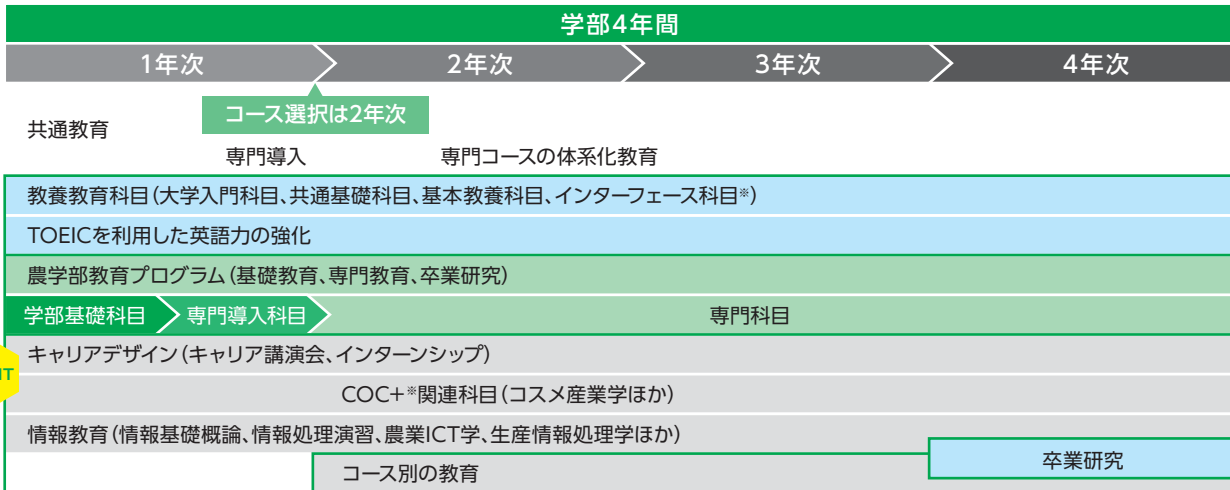
養成する人材像

農学及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえる深い専門性と幅広い素養を身につけ、国内外での農業及び関連産業の発展に貢献する人材を養成する。

習得させる能力

- ◎農林水産業に関わる問題発見能力、課題の設定と解決能力
- ◎生物生産技術への対応力
- ◎農林水産資源の開発と生産、食と健康、環境問題など地球規模課題に対応できる実践力

教育カリキュラム



*インターフェース科目▶ 授業や演習で学んだ知識やスキルを、社会に活用していくための力を培うための科目です。[環境コース][文化と共生コース][生活と科学コース][医療・福祉と社会コース][地域・佐賀学コース]の5コースがあります。

*COC+▶ さが地方創生人材育成・活用プロジェクト、「地(知)の拠点大学」として、地方公共団体や産業界と連携し、大卒者の地元就職率の向上と雇用の拡大・創出を進めます。農学部では、農業のIT化、六次産業化を図るとともに、コスメティック産業を担う人材育成に取り組んでいます。

農学部 Q&A

<p>Q キャリア教育とは?</p> <p>A. 将来の職業や働き方を、1年次から考えていきます。</p> <p>農業ICT学*やアグリキャリアデザインなどの新しい科目の導入をはじめ、地元企業の産学連携によるIoT農業*研究などを行うことで、ビジネスとしての農業を身近で感じ、広い視野でのキャリアデザインを支援します。また、国際・地域マネジメントコースでは、アジア農村での現地研修「アジア・フィールドワーク」や、国内外の企業や研究所などの仕事を現地体験する「国際・地域インターンシップ」などを開講します。国際社会においても活躍でき、よりグローバルな視点にたったキャリアデザインが可能です。</p>	<p>Q 1年次の学びは?</p> <p>A. 農学に関する幅広い知識を身につけます。</p> <p>農学の基礎科目である生物学、物理学、化学を必修とし、深い専門性を身につける素地を構築します。1年次に農学に関する基礎知識を幅広く十分に修得した上で、2年次の専門コースを選択します。</p>
<p>Q 専門導入教育とは?</p> <p>A. 2年次からの専門コースのための素養を身につけます。</p> <p>農学の基礎科目を学んだ上で、さらに1年の後学期には専門導入科目を学びます。汎用性の高い基礎知識や技術を習得し、2年次から始まる専門コースの教育に必要な幅広い素養を身につけることで、確かなマッチングを行います。</p>	<p>Q 卒業後の進路は?</p> <p>A. 農業関連はもちろん、多彩な進路があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎民間企業 (食品・製薬企業、農林水産業、卸売・小売業、金融・保険業、不動産業、建設業、教育学習支援業、サービス業など) ◎公務員 ◎教員 ◎進学(大学院修士・博士課程)

*農業ICT学▶ ICT(Information and Communication Technology 情報通信技術)を活用した農業への取り組みを、生産の効率化、高付加価値化、省力化、コスト削減などの多方面から考えます。佐賀県や企業と連携しながら、スマート農業技術の開発なども行っていきます。

*IoT農業 ▶ 従来は人の手で行っていた生産管理から品質管理、流通、販売など、農業の生産から経営までを、IoT(Internet of Things)やクラウドなどを活用して最適化を実現するスマート農業。

コース紹介

生物科学コース

地域の特徴ある生物資源を活用した、新規農産物や新品種の開発、効率的な生産技術の開発など、生物資源の開発と応用に関する教育研究を行うと同時に、地域の新産業の育成にも貢献します。

【主な研究】

- 農場や温室を活用した農産資源の生産
- アグリセラピー（医療への応用）
- 農作物からの健康機能性分子の探索
- 食品加工技術
- 米・ダイズ・ミカン・佐賀牛などの新品種開発
- 根粒菌や菌根菌の農業活用
- 環境保全農業
- 植物病原菌ウイルス・害虫類の生理生態解明



ウイルスが感染したチューリップの斑入り症状

【主な進路先】

- 農業関連企業
- 食品関連企業
- 環境関連企業
- 公務員
- 教員
- 農業経営
- 大学院進学 など

【主な進学先】

- 佐賀大学大学院
- 九州大学大学院

【卒業研究紹介】

ミカン亜科植物におけるポリメトキシフラボン様物質について



農学研究科1年
(応用生物科学科平成30年3月卒)

伊丹 悠里

栃木県立宇都宮女子高等学校出身

ポリメトキシフラボンは、抗がん作用や抗アルツハイマー病作用などの健康機能性を持つことで近年注目されている物質です。私は、HPLCという機械を用いてこの成分についての分析を行いました。サンプル数が多くて処理に時間がかかったり、目的の成分を分析できるような条件を検討したりと実験中は大変なこともありましたが、研究対象のミカン亜科遺伝資源には希少な物も含まれていたため、良い体験ができたと思っています。

食資源環境科学コース

地球規模の課題ともなっている環境保全やエネルギー開発をはじめ、農業生産システムに関する先端技術の開発を行うことで、農業の技術革新を地方から先導し、地域の農業基盤を支えます。

【主な研究】

- ITを活用した農業の超効率化
- 食糧生産環境の保全と再生
- 有明海・干潟の環境保全と利活用
- 再生可能資源の開発と普及
- 農地における物質・エネルギー循環機構の解明
- 農地防災
- 伝統発酵食品の機能性開発
- 農業機械

【主な進路先】

- 公務員
- 食品関連企業
- 建設コンサルタント関連企業
- 建設業関連企業
- 環境関連企業
- 農業機械関連企業
- 農産加工施設関連企業
- 農協関連企業
- 公益・特殊・独立行政法人
- 大学院進学 など

【卒業研究紹介】

“先祖返り”酵母の開発



農学研究科1年
(生物環境科学科平成30年3月卒)

山本 裕貴

福岡工業大学附属城東高等学校出身

私の研究では“先祖”の酵母を活用した醸造酵母の育種を行っています。育種の結果、先祖返りした醸造酵母の個体を見つけることができ、現代の醸造酵母の欠点を克服する技術として全国的な学会（日本生物工学会）で重要なトピックスの一つに選ばれました。

本研究を進める中で、試行錯誤する場面が多々ありましたが、同時に多くの知識・技術を学ぶことができました。この経験は大学卒業後のステップで必ず財産になると信じています。

在学生メッセージ

NAME

農学部
応用生物科学科4年

川述 優紀

福岡県立
城南高等学校出身



生物について基礎と応用の両面から学べる

応用生物科学科では、生物について基礎と応用の両面から学ぶことができます。対象の生物は植物、哺乳類や鳥類、昆虫、菌類、ウイルスなど様々です。授業は座学だけでなく、2年生からは各分野の研究室の実験を行う学生実験や、田植えや農作物の収穫、ソーセージ作りなどを体験できるフィールド実習があります。いろいろな体験を通して、より知識や理解を深めることができると思います。3年生からは研究室に配属され、興味のある分野をより専門的に学べます。自分の興味があるものを見つけ、深めるのにぴったりな学科です。

私の合格体験記

私は動物も植物も好きだったので、生物について幅広く勉強できる応用生物科学科を選びました。この学科であれば、様々な生物について基礎から学べるし、興味を持ったものについては研究室でより専門的に理解を深めることができると思ったからです。合格のために、高校では授業の予習復習をしっかり行い、通学時間や休み時間を有効に活用しました。皆さんも夢や目標に向かって、受験期を乗り切ってください。

NAME

農学部
生物環境科学科4年

山田 侑果

佐賀県立
佐賀北高等学校出身



たくさんの可能性が広がる

生物環境科学科では、農業の技術から世界の食糧事情まで、あらゆる方面から農業を学ぶことができます。農業といっても、技術だけでなく、幅広く専門的な知識も身に着けることで、物事の見方が大きく変わっていきます。1年次は主に基礎を学び、座学だけでなく農場実習もあります。2、3年次になるとコースや研究室に分かれて、より専門的な内容を学びます。この頃には、自分の学びたいことが明確になっていき、どの授業もとても楽しいです。幅広く学びたいという人には、ピッタリだと思います。

私の合格体験記

ひとまずは、センター試験でできるだけ点数を取って、自信をつけようと考えていました。特に、数学に関しては、すべての問題を解くのは難しいだろうと思っていたので、得意なものにしばって勉強しました。土日は、近くの図書館に開館から閉館までこもって勉強をしていました。友達と一緒に行き、外で食べる昼ご飯は、良い息抜きになりました。

生命機能科学コース

実験を重視したカリキュラムにより、食品、医薬・化粧品、環境などの分野における科学技術の発展を推進する能力を備えた人材を育成し、地域生物資源の活用に関する研究にも貢献します。

【主な研究】

- ◎醸造微生物の生理機能と利用
- ◎抗メタボ・健康機能性食品の開発
- ◎医薬成分の探索
- ◎食品の安全性
- ◎タンパク質機能解析と産業利用
- ◎藻類バイオマスの利用
- ◎有明海海苔の食品開発
- ◎化粧品成分の探索

【主な進路先】

- ◎食品・医薬品関連企業
- ◎化粧品関連企業
- ◎農業関連企業
- ◎公務員
- ◎教員
- ◎大学院進学 など



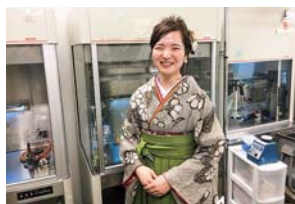
微生物学実験(3年生)

【主な進学先】

- ◎佐賀大学大学院 ◎九州大学大学院 ほか

【卒業研究紹介】

焼酎醸造用白麹菌におけるイタコン酸生産能の獲得



農学研究科1年
(生命機能科学科平成30年3月卒)

野中 咲希

佐賀県立鹿島高等学校出身

私は、白麹菌がもともと生産できない有用な有機酸を、遺伝子工学を駆使することで、白麹菌に新たに有用有機酸の生産能を獲得させることに成功しました。良い結果が毎回得られるとは限りませんが、得られた結果を元に、次にどのような実験をすべきかを考え取り組む力が養われています。誰もやっていないことを自分が最初に成功させるという喜びは大きく、毎日有意義な研究中心の大学院生活を送っています。

国際・地域マネジメントコース

地域創生の基盤となる農林水産業と地域産業の連携の構築や農山漁村のコミュニティ再生など、人々が健康で豊かな暮らしを送るため、地域の資源や環境をどのようにに活用し、保全していくことが必要か国際的視野で教育研究します。



【主な研究】

- ◎地域創生 ◎農業のビジネス戦略 ◎6次産業化
- ◎国際・国内の農産物市場 ◎農山漁村コミュニティの持続的発展
- ◎農山漁村における地域資源の適正管理と活用
- ◎日本と世界の人々の食生活の変化と健康問題
- ◎アジア・アフリカなど世界の農村の生業と文化

【主な進路先】

- ◎公務員 ◎団体職員(JA等) ◎食品関連企業 ◎金融業(銀行)
- ◎報道機関(新聞・放送) ◎教員 ◎農業(農業法人・自営)
- ◎NPO・NGO団体 ◎大学院進学 など

【卒業研究紹介】

居住形態別にみた佐賀大生の朝食欠食要因



農学部生物環境科学科
平成30年3月卒業

森田 彩紀

長崎県立長崎南高等学校出身

平成21年の内閣府調査によると、大学生の約40%が朝食を欠食していたとの報告があります。朝食の欠食は生活習慣の乱れや生活習慣病を引き起こす恐れがあるため、「朝食を欠食する若い世代を減少させること」は重要な政策課題のひとつになっています。私の卒業研究では、佐賀大学の学生569人を対象にして、食と健康に関するアンケート調査を行い、佐賀大学の朝食欠食の実態とその要因を明らかにする統計分析を行いました。

NAME

農学部
生命機能科学科3年

秋篠 美来

大分県
大分東明高等学校出身



日常生活と関わる講義は面白い!

生命機能科学科では、生命化学や食糧科学について学ぶことができます。2年の後期から実験が始まりますが、実験を行う上で基礎となる講義が1・2年の間に行われます。実験は機器の扱い方や手法、薬品の取り扱いなどを知れる良い機会です。協力して行うので仲間との絆も深まります。また、食品衛生学・生化学・有機化学・微生物学などの講義があります。講義では食品や生体を扱うため日常生活とリンクする内容が多く、どの講義も好奇心をくすぐられます!生物や化学が好き人、食品系の企業に就職したい人はぜひ生命機能科学科へ!

私の合格体験記

私は実家が農家ということもあって、「農業・食料」について関心を持っており、農学部への進学も視野に入れて高校生活を送っていました。そんな時、高校で微生物について学び、私は微生物が持つさまざまな生理作用にとっても興味を持ちました。大学では私たちの生活に役に立つような微生物の研究をしたいと思い、この生命機能科学科を受験することに決めました。

NAME

農学研究科1年

宮川 幸

福岡県立
伝習館高等学校出身



植物や生物、自然環境から民族まで幅広く学ぶ

生物環境科学科には様々な教育研究分野があり、植物や動物、微生物などの生物、それらを取り巻く水や土壌などの自然環境、さらに社会や経済、民族など幅広い内容を学ぶことができます。また、フィールド実習といった屋外での活動が多く、作物栽培や家畜管理などの農作業を体験できる機会が多いことも魅力の1つです。1年次では幅広く基礎的なことを学ぶことができますので、自分のやりたいことや興味のあることを見つけることができます。皆さんもこの魅力的な学科で楽しい大学生活を一緒に送ってみませんか?

私の合格体験記

以前から食と健康に興味があり、将来は食品業界へ就職したいと思ったので佐賀大学農学部を受験しました。センター試験も二次試験も主に過去問を繰り返し解いて対策を行いました。周りの友人が志望大学に合格していく中で、最後まで受験勉強を続けなくてはならない時期もありましたが、実際に佐賀大学農学部からたくさんの先輩方が食品業界へ就職されており、それをモチベーションとして勉強に励んでいました。